

【概要】

抗がん剤曝露対策（以下曝露対策）は職員すべての健康を守るために推進が必要である。しかし、いくら曝露対策マニュアルを整えても、その後の動機づけや教育が十分でない場合、実施には至らない。当院でもマニュアルは整備されているが、部署間では対策に差が生じており、職員の健康は充分には守られていない。今回曝露対策の推進を図るため、マニュアルの整備、職員への教育、閉鎖式薬物移送システム（以下CSTDとする）の導入、患者・家族への教育に取り組んだ。報告はCSTDの導入に焦点を絞るが、チームの編成、CSTDの選定、他部門への協力要請、主要関連部門での検討など、多くの部門、職員を巻き込み取り組むことで、曝露対策への動機づけが図れた。結果としてこの報告時点ではCSTDの導入には至っていないが、安全な病院環境の実現には一歩近づいたと考える。

【背景】

2014年厚生労働省より抗がん剤曝露対策について通知があり、翌年3学会合同ガイドラインが作成された。当院でもこれまでであった曝露対策の手引き（以下手引きとする）の見直しを行った。しかし手引きは整えたが、医療職員に対する教育が十分ではなく、また曝露対策において、専門的知識を持った看護師が配置されておらず、継続的な取り組みに至っていない。そのため曝露対策には部署間で差が生じており、医療職員、患者、家族の安全が充分には守られていなかった。教育担当副部長として、曝露対策の必要性を感じ、対策について取り組むことで、医療職員全体で、安全な病院環境を作りたいと考えた。今回は計画の中でもCSTDの導入について報告する。

【実践計画】

- 1) 手引きの見直し
- 2) 調査の実施および調査結果に基づいた曝露対策教育
- 3) CSTDの導入（下記に詳細を記載する）
- 4) 患者・家族への曝露対策教育

CSTDの導入（詳細計画）

- (1) チーム編成（8月末まで）
- (2) CSTDの選定ならびに導入内容について検討（9月末まで）
- (3) 関係機関への交渉（11月末まで）
- (4) 病院長、事務部長、会計課長への提案（12月末まで）
- (5) 決定後集合教育・部署教育の実施、プレテスト（3月末まで）

【結果】

- 1) チーム編成

看護部長、薬剤部長の了承を得て、薬剤部・外来化学療法室・抗がん剤の取扱が多い2部署（血液内科、頭頸部外科/産婦人科）・がん治療センターの薬剤師、看護師でチーム編成を行った（8月末）。

2) CSTD の選定ならびに導入内容について検討

(1) チームでの検討

9月～11月まで計5回チームミーティングを実施し、6社よりCSTDの説明を受けた。先行文献を参考に評価表を作成し、評価表もとに選定し、2社まで絞り込みを行った。(11月末)。

(2) 他施設訪問し、曝露対策について情報収集を行った(10月31日 慶應義塾大学病院訪問)

(3) 部署でのデモによる評価(新たに追加)

選定した2社について、3部署(外来化学療法室・血液内科病棟・頭頸部外科/産婦人科病棟)の全スタッフがレジメンに沿ってデモを実施した。部署での評価用に新たに作成した評価表を用いて、評価を行った(2月上旬)。

①実施期間：2019年1月中旬～2週間

②対象者：外来化学療法室・血液内科病棟・頭頸部外科/産婦人科病棟の看護師 63名

③評価方法

- ・レジメンに沿って、看護師にCSTDをデモで複数回使用してもらい、評価表に基づき評価
- ・レジメンは部署で頻度の多いものとし、外来化学：VNR、血液内科：R-CHOP、頭頸部：TC療法とした
- ・評価項目は安全性、操作性など計6項目、評価基準は 非常に良い(3点) 良い(2点) まずまず良い(1点) 悪い(0点) とした。

3) 関係機関への交渉

会計課(予算担当)、医療安全管理部、がん治療センター、機能強化戦略推進室(機能評価担当)にCSTD導入の必要性について説明を行い、導入への協力要請を行い、承諾を得た(10月末)。

4) 主要関連部門での話し合い(新たに追加)

薬剤部長、薬剤師3名、会計課長、医事課長補佐、看護部長、副看護部長、看護師1名で、今後の進め方について話し合いを行った。検討課題は、投与におけるメーカーの選定、病院長への提案時期、方法であり、今後数回話し合いを持ち、合意形成を図る方針となった。

5) 病院長、事務部長への提案

4)での決定を待って提案する。時期は未定。

6) 決定後集合教育・部署教育の実施、プレテスト

現在の段階では時期は未定。

【評価及び今後の課題】

1) CSTDが全部署に導入できたか

2) CSTDがどのレベルの抗がん剤まで導入できたか

導入については未決定であり、導入時期は未定だが病院長への提案の返答をもって評価する。全抗がん剤に導入したいが、予算の関係でレベル1のみなど一部となる可能性がある。

3) 他職種、スタッフを巻き込み導入できたか

チーム・部署での検討、評価をもとに選定を行っており、導入は未定だが巻き込むことはできた。チームでの検討、部署でのデモによる評価を実施し、スタッフからは抗がん剤曝露の危険性、曝露対策の重要性、CSTD導入への強い要望が聞かれ、導入には至っていないが、曝露対策への動機づけは図れたと考える。